



令和4年1月21日
海上保安庁

令和3年における船舶事故・人身事故発生状況（速報値） ～水上オートバイ・釣り中の事故が増加～

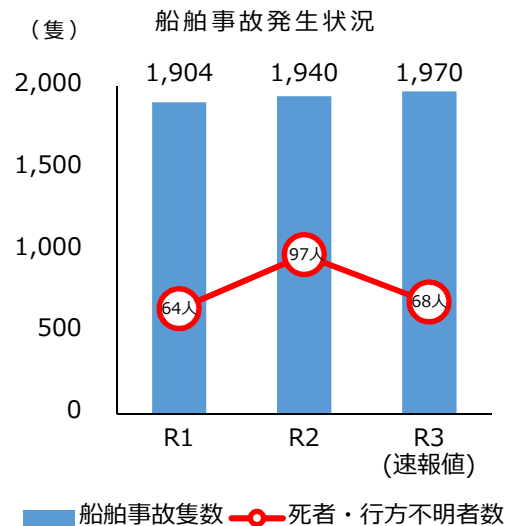
- 船舶事故隻数が1,970隻（昨年比30隻増加）
このうち、水上オートバイの船舶事故隻数が昨年より27隻増加（昨年比約1.5倍）
- 人身事故者数は1,236人（昨年比59人減少）
このうち、釣り中の事故者数が昨年より15人増加（昨年比約1.1倍）

船舶事故発生状況

- 船舶事故隻数は1,970隻（1,791件注）
（昨年比30隻増加）
- 船舶事故に伴う死者・行方不明者数は68人
（昨年比29人減少）
- プレジャーボートの船舶事故隻数は1,194隻
（昨年比22隻増）
- 水上オートバイの船舶事故隻数は78隻
（昨年比27隻増）
- 船舶事故隻数の増加要因は、プレジャーボートの船舶事故22隻増加が大きく影響

注：件数は、船舶同士の衝突及び火災の延焼が発生した場合、関係する船舶を1件としてまとめている。

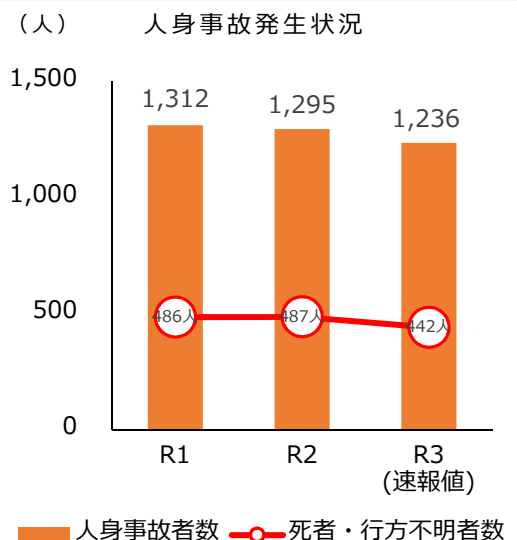
※事故隻数は、民間救助機関が救助した船舶事故を含む。



人身事故発生状況

- 人身事故者数は1,236人（昨年比59人減少）
- 死者・行方不明者数は442人（昨年比45人減少）
- マリンレジャー活動に伴う人身事故者数は585人
（昨年比23人増加）
- 釣り中の事故者数は202人（昨年比15人増加）
- SUP(スタンドアップパドルボード)中の事故者数は7人（昨年と同数）
- 人身事故が減少した要因は、マリンレジャー活動以外の人身事故82人減少が大きく影響

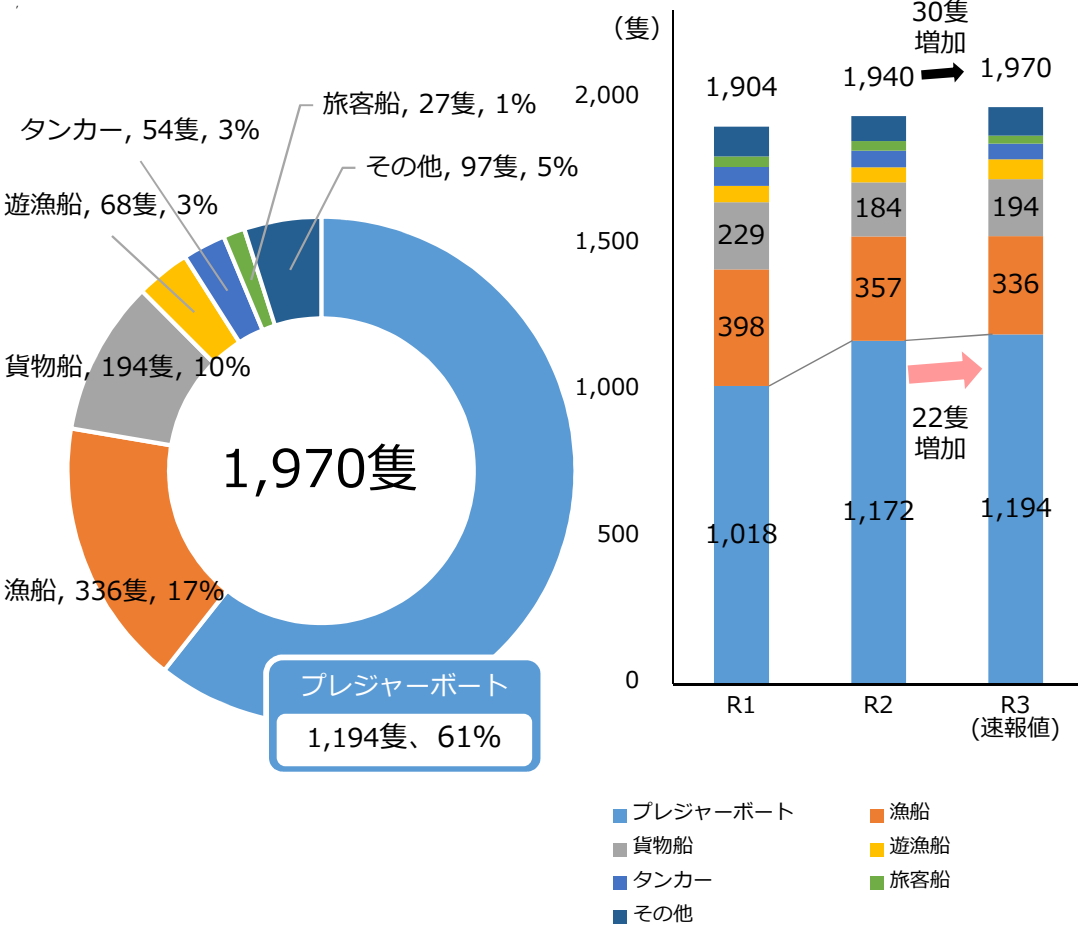
※事故者数は、民間救助機関が救助した事故者は含まない。



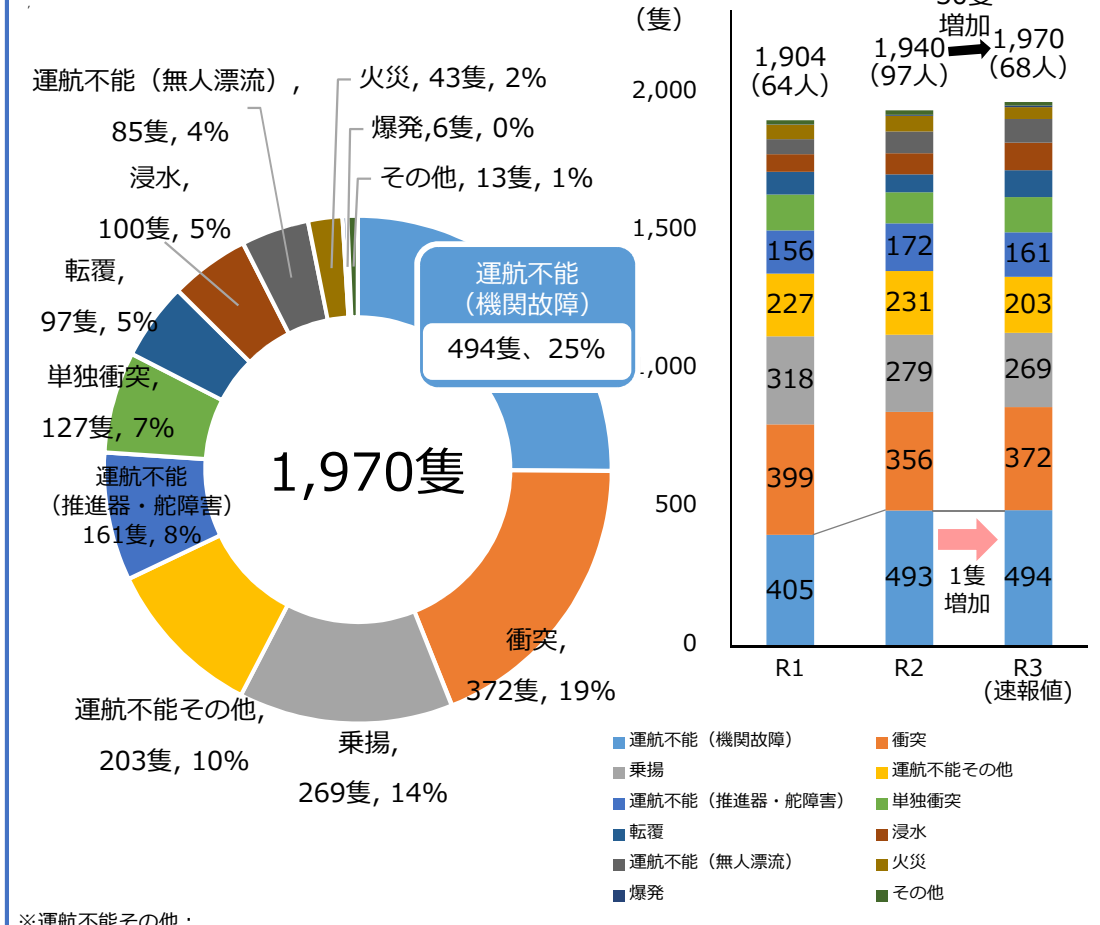
ポイント

- ▶ 船舶事故隻数：1,970隻（昨年比30隻増加）、死者・行方不明者数：68人（昨年比29人減少）
- ▶ プレジャーボートの船舶事故は、船舶事故全体の61%となる1,194隻で最多（昨年比22隻増加）
- ▶ 運航不能（機関故障）の船舶事故は、船舶事故全体の25%となる494隻で最多（昨年比1隻増加）

船舶種類別



海難種類別発生状況



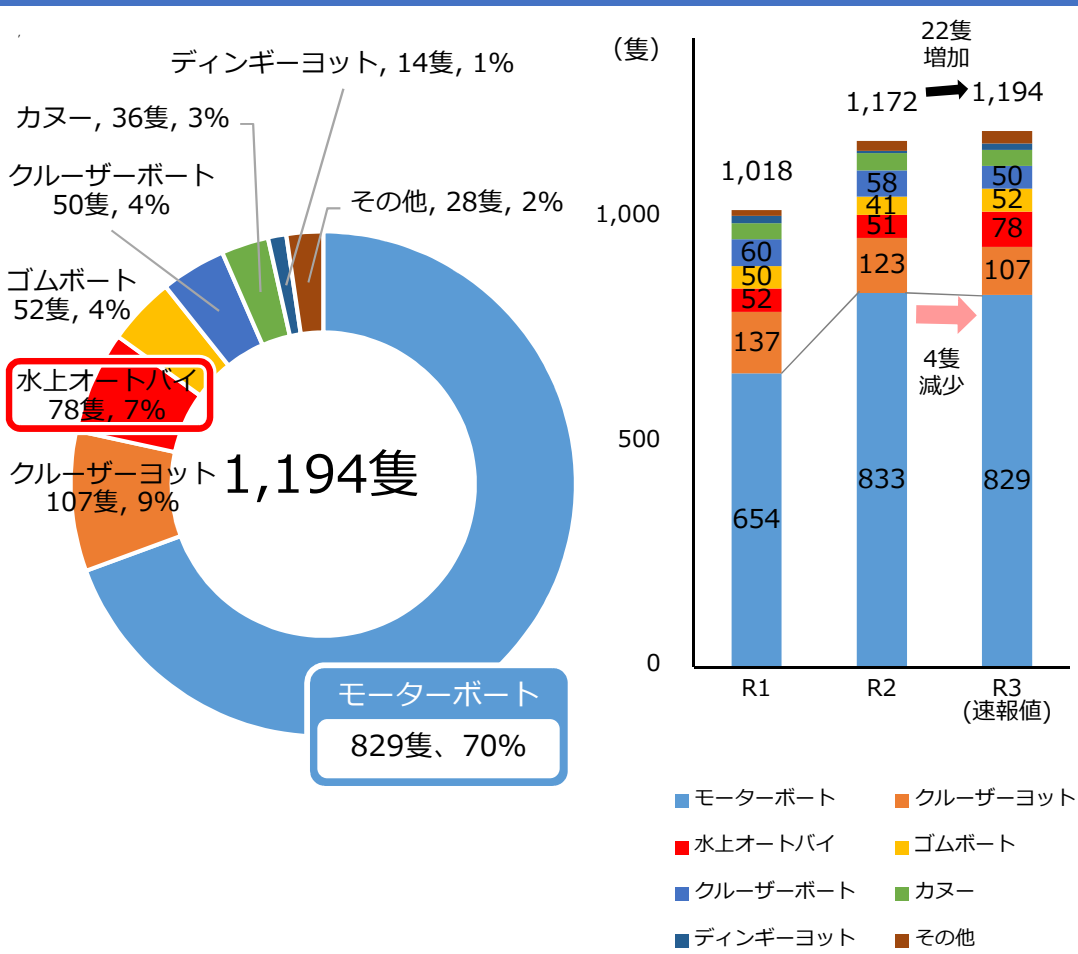
※ 運航不能その他：機関故障、推進器障害、舵障害、無人漂流以外の運航不能

※ () 内は死者・行方不明者数

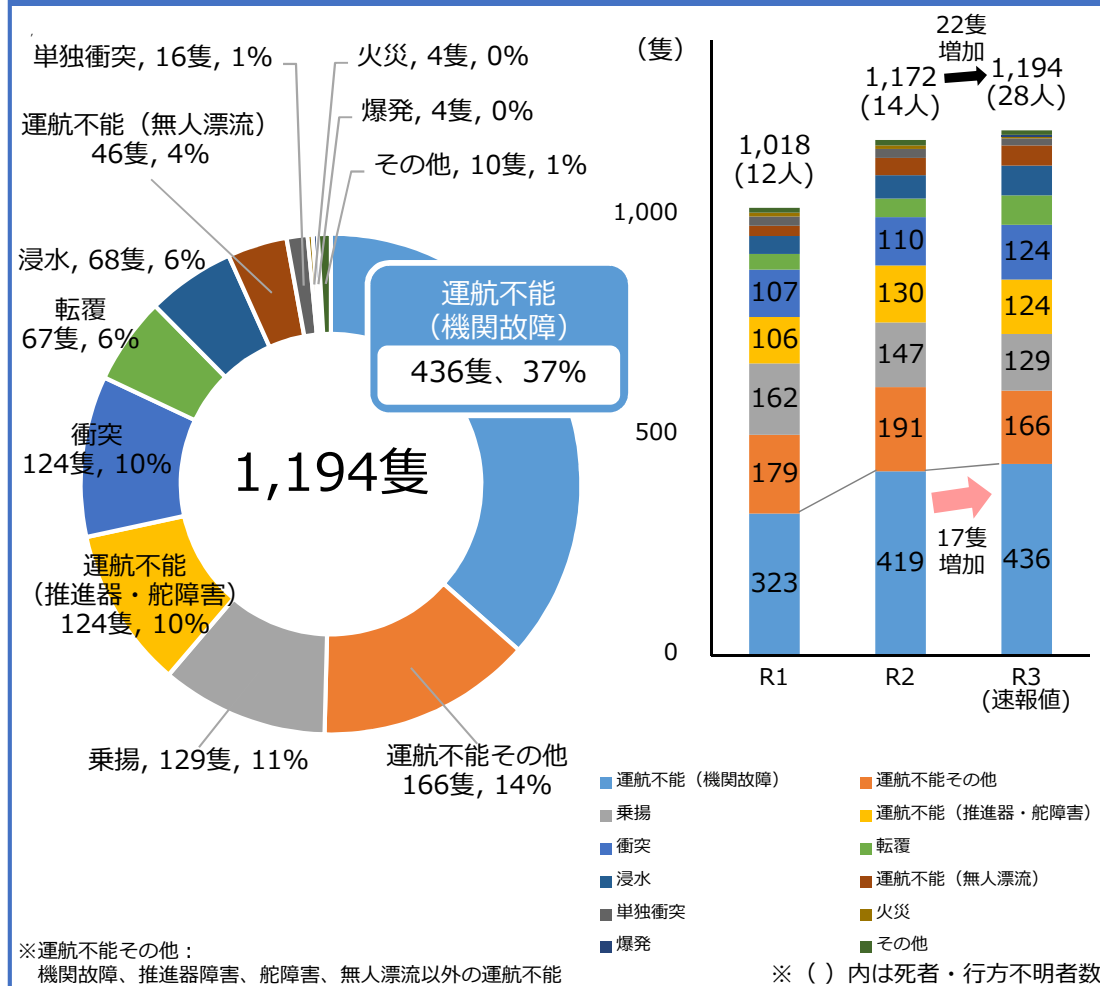
ポイント

- ▶ プレジャーボートの船舶事故隻数：1,194隻（昨年比22隻増加）、死者・行方不明者数：28人（昨年比14人増加）
- ▶ モーターボートの船舶事故は、プレジャーボートの船舶事故全体の70%となる829隻で最多（昨年比4隻減少）
- ▶ 運航不能（機関故障）の船舶事故は、プレジャーボートの船舶事故全体の37%となる436隻で最多（昨年比17隻増加）

船舶種類別



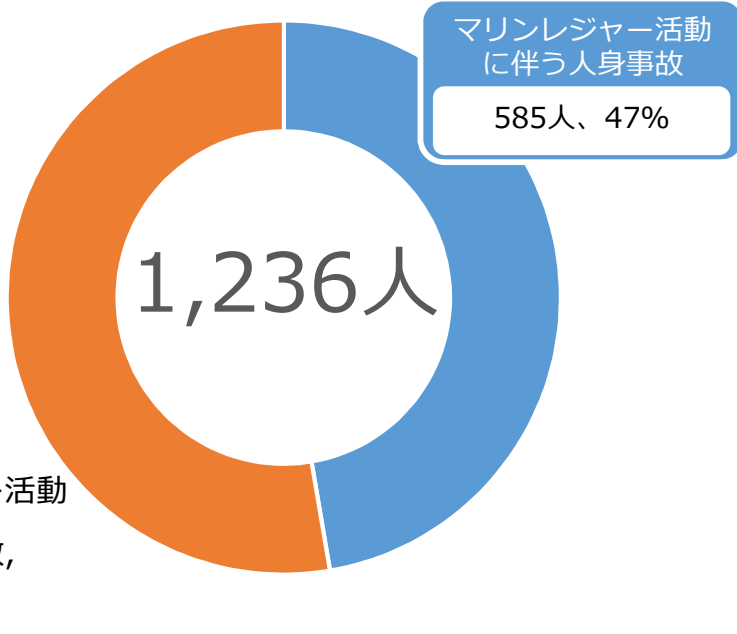
海難種類別発生状況



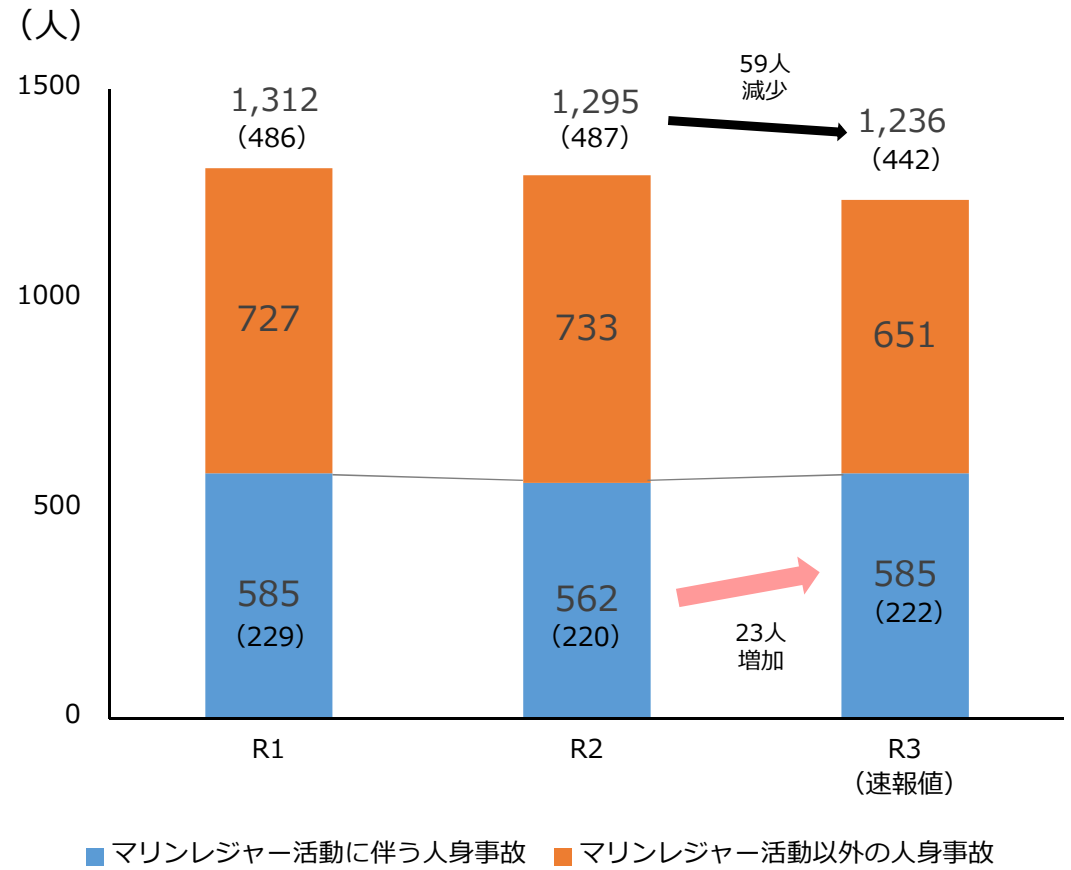
ポイント

- 人身事故者数：1,236人（昨年比59人減少）
 : 死者・行方不明者数 442人（昨年比45人減少）
- マリンレジャーに活動に伴う人身事故は、人身事故全体の47%となる585人（昨年比23人増加）

令和3年 人身事故の内訳



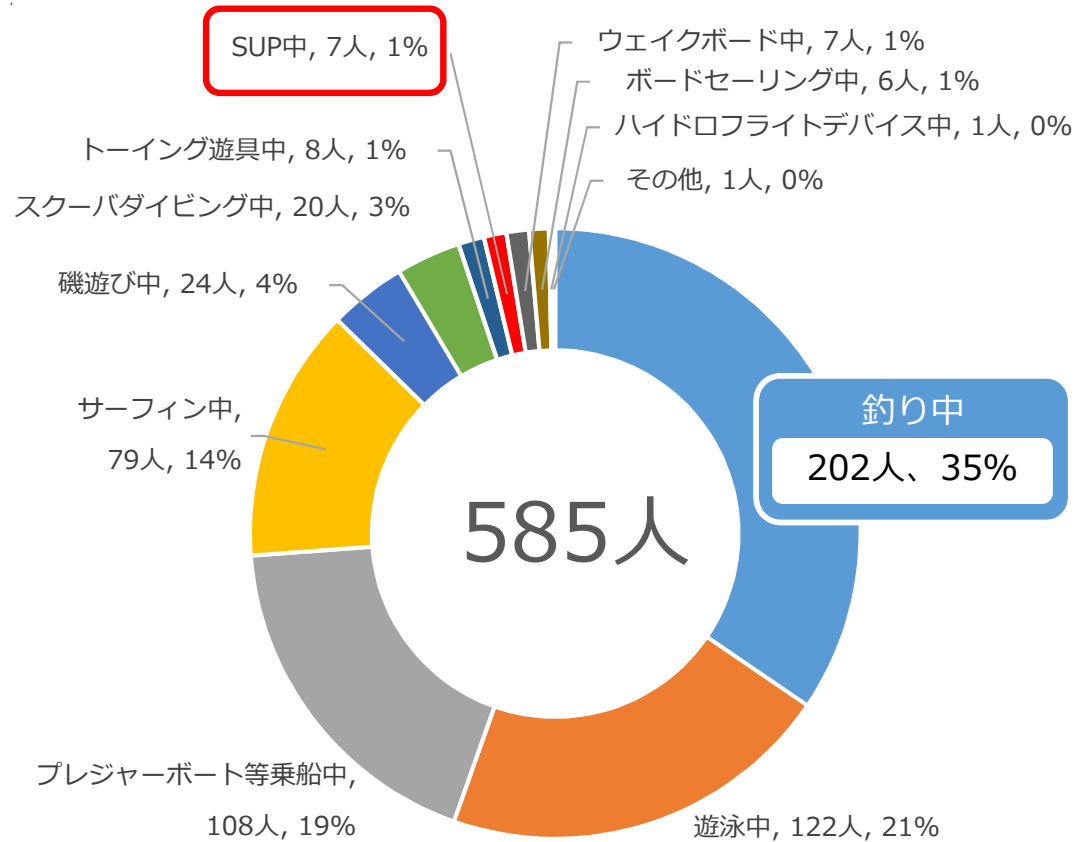
人身事故発生数の推移



ポイント

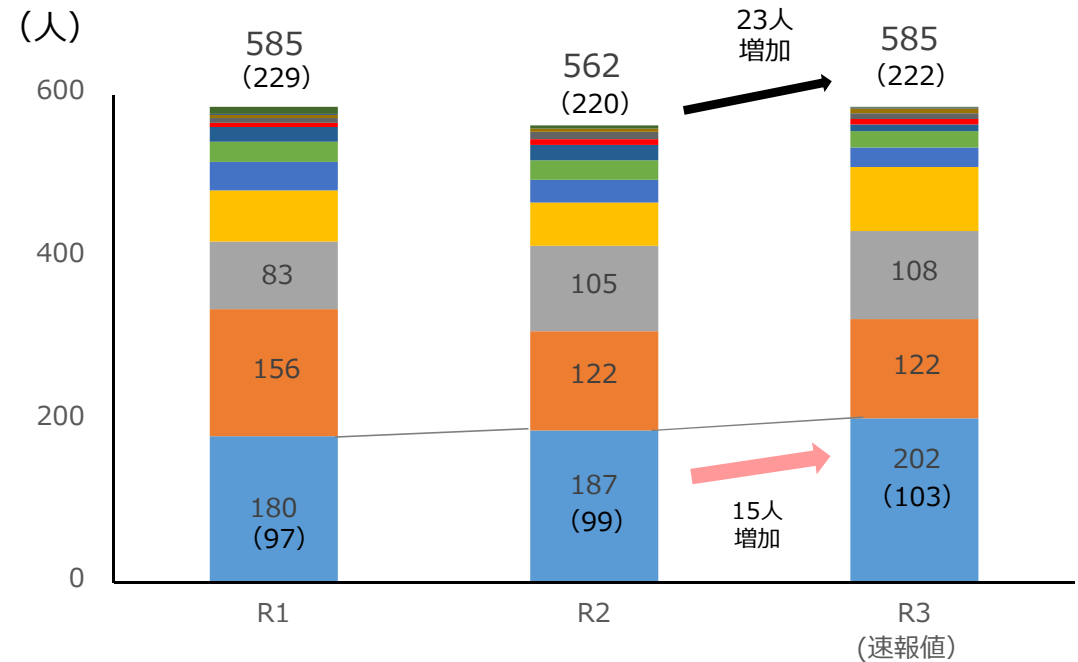
- ▶ マリレジャー活動に伴う人身事故者数：585人（前年比23人増加）
 ：死者・行方不明者数 222人（前年比2人増加）
- ▶ 釣り中の人身事故は、マリレジャー活動に伴う人身事故全体の35%となる202人で最多（前年比15人増加）

令和3年 マリレジャー活動の活動内容別の内訳



※ プレジャーボート等：プレジャーボート及び遊漁船

マリレジャー活動に伴う人身事故発生数の推移



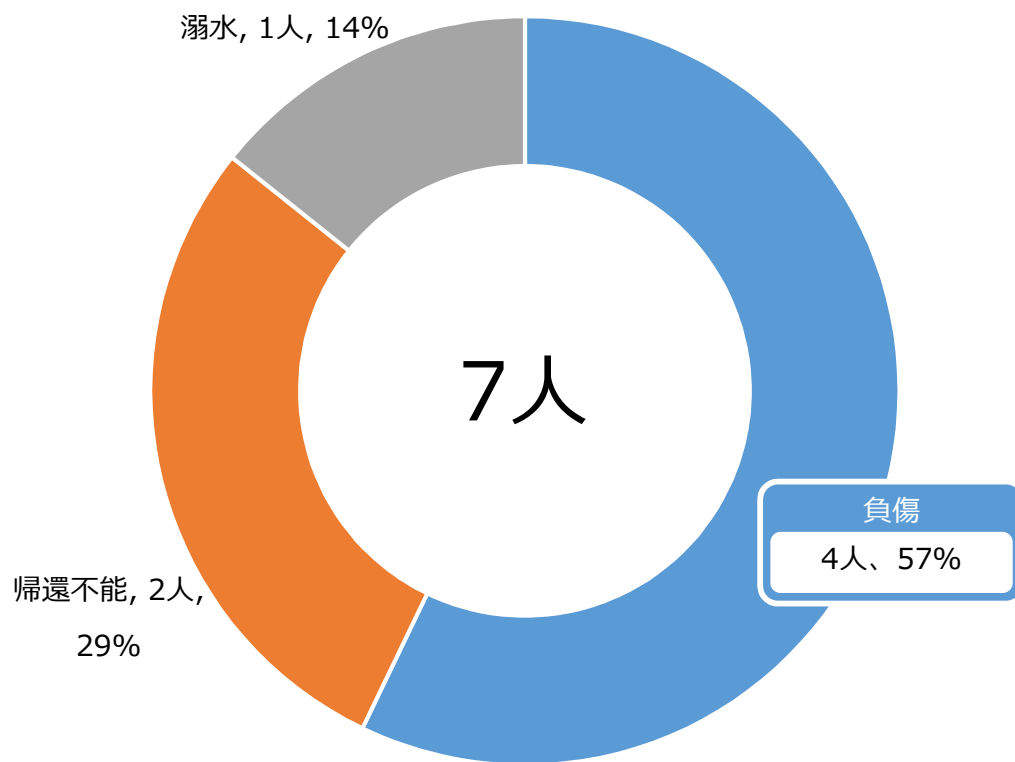
- 釣り中
- 遊泳中
- プレジャーボート等乗船中
- サーフィン中
- 磯遊び中
- スクーバダイビング中
- トーイング遊具中
- SUP中
- ウェイクボード中
- ボードセーリング中
- ハイドロフライトデバイス中
- その他

※ () 内は、死者・行方不明者数

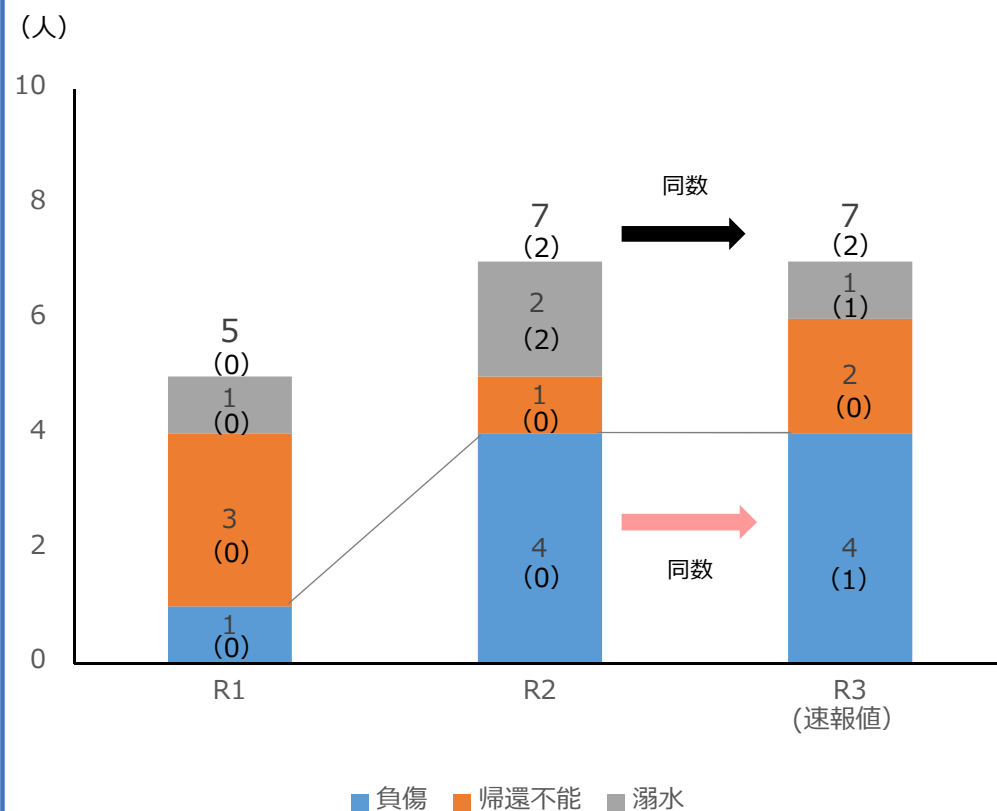
ポイント

- 人身事故者数 : 7人 (昨年と同数)
 - : 死者・行方不明者数2人 (昨年と同数)
- 負傷の人身事故は、SUP中の人身事故全体の57%となる4人で最多 (昨年と同数)

令和3年 事故内容別の内訳



事故内容別発生状況の推移



※ () 内は死者行方不明者数

主な事故事例

船舶事故

年月日 令和3年9月15日
場所 兵庫県淡路市沖
事故船舶 水上オートバイ
海難種類 単独衝突
概要 水上オートバイに3人乗船のうえ航行中、護岸に衝突したものの。医師により3人全員の死亡が確認された。

年月日 令和3年9月20日
場所 広島県江田島市沖
事故船舶 プレジャーボート
海難種類 運航不能（機関故障）
概要 エンジンのかけたまま釣りをしていたところ、冷却水の警報が鳴ったため、一旦エンジンを停止し、再起動を試みるも起動しなくなったもの。巡視艇により曳航救助された。

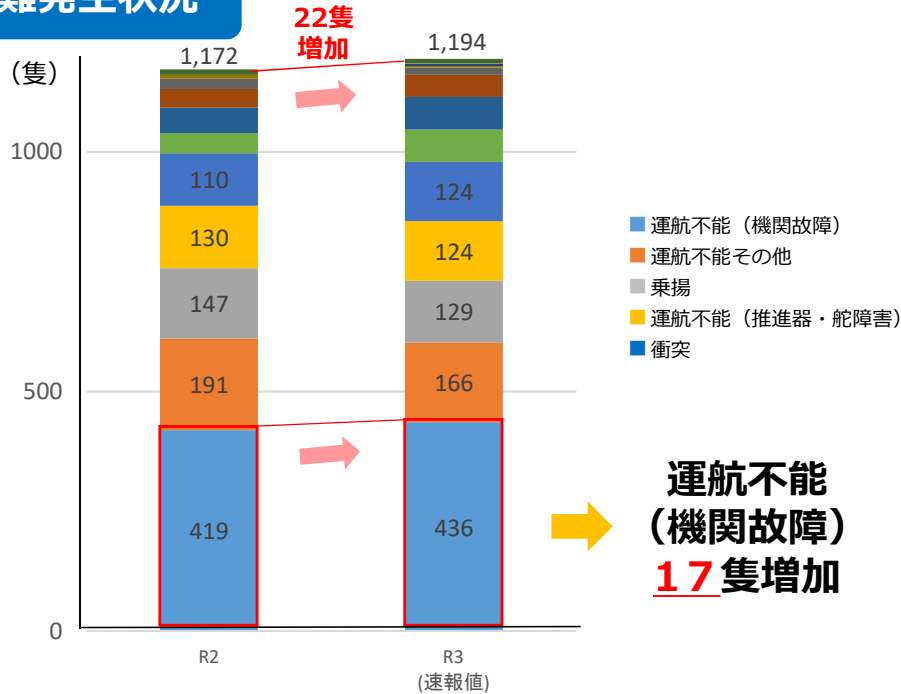
人身事故

年月日 令和3年9月5日
場所 福井県大飯郡高浜町和田浜
事故者 20代 女性
活動内容 SUP中
海難種類 負傷
概要 事故者は、知人及びインストラクターとともにSUPを始め、写真を撮っていたところ、航行中の漁船と衝突したものの。搬送先の病院で死亡が確認された。

年月日 令和3年10月2日
場所 三重県北牟婁郡紀北町沖
事故者 60代 男性
活動内容 釣り中
海難種類 海中転落
概要 事故者は、磯場で釣り中に誤って足を滑らせ海中転落したものの。瀬渡し船により救助されたが、搬送先の病院で死亡が確認された。

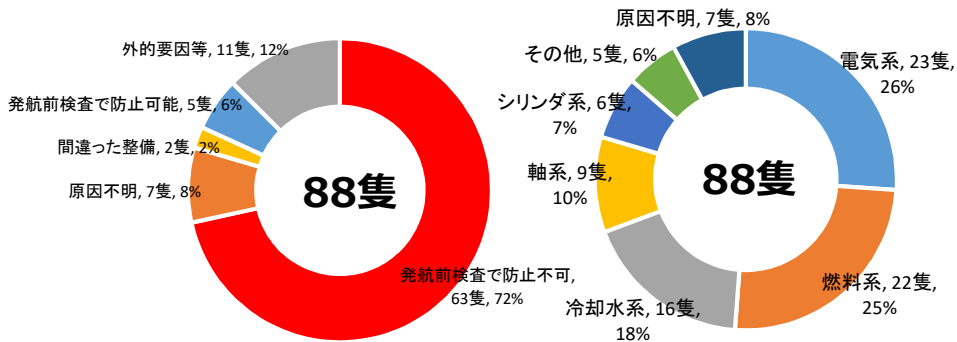
プレジャーボートの機関故障に係る安全対策について

海難発生状況



バックグラウンド調査結果

調査期間：令和2年7月1日から9月30日までの間
 調査対象：プレジャーボートによる運航不能（機関故障）88隻



故障例 ○電気系：セルモーターの不具合 ○燃料系：燃料ポンプの不具合
 ○冷却水：系冷却水ポンプの不具合 ○軸系：シャフトのギア欠損 など

→調査した事故の約8割が整備事業者等による定期的な点検整備により防止できた可能性あり

機関故障防止対策

機関故障を防止するためには、

- ✓ ① 小型船舶操縦者の遵守事項に定められている「**発航前検査の徹底**」の実施
- ✓ ② 「**整備事業者等による定期的な点検整備**」の実施が重要です。



【発航前検査チェックリスト】



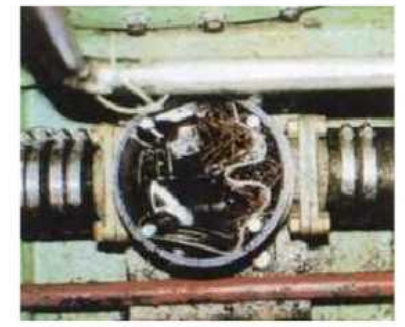
【機関故障防止対策リーフレット】



点検整備を怠り生じた機関故障事例



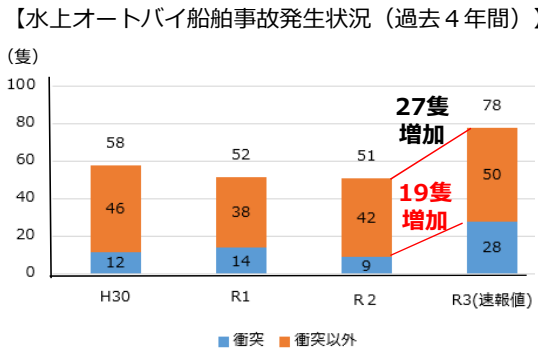
【エンジンオイル不良によるエンジンの損傷】



【海水こし器のごみ溜まり】

海難発生状況

令和3年の水上オートバイに係る船舶事故は**78隻**（速報値）で増加傾向にあり、過去4年間の合計では**衝突が最も多く**発生しています。

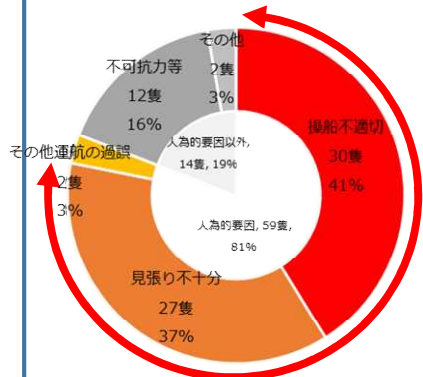


【事故原因】

令和2年までの過去5年間において、**操船不適切や見張り不十分**によるものが約**8割**を占めています。

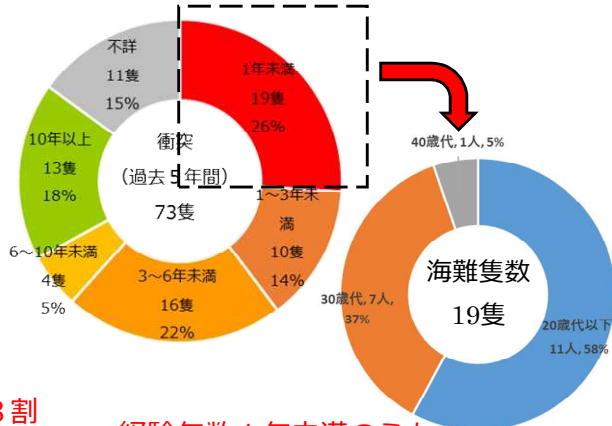
経験年数別では、**経験年数1年未満の者**によるものが最も多く、この内、**20歳代以下**の事故が半数を超えている状況です。

【衝突の原因別発生割合】
(H28-R2)



操船不適切、見張り不十分が約8割

【衝突における経験年数別発生割合】
(H28-R2)



経験年数1年未満のうち、20歳代以下によるものが約6割

海難防止対策

水上オートバイは機動性に優れ、スピード感などが楽しめる乗り物ですが、昨年9月兵庫県淡路市において3名乗りの水上オートバイが消波ブロックに衝突し、乗船者全員が死亡するという痛ましい事故が発生しているなど、安全には十分留意する必要があります。

衝突事故の防止については

- ✓ ①無理なく危険を回避又は停船できる安全な速力を保つ
- ✓ ②旋回や減速を行う際は周囲の安全確認を確実に行う
- ✓ ③速力に応じた旋回径を確実に把握する

ことが重要です。

海上保安庁では、海難防止講習会や訪船指導を通じて水上オートバイユーザーの安全意識の向上を図るほか、関係機関・団体とも連携・協力して水上オートバイによる事故の未然防止を図っております。



Water Safety Guide
(水上オートバイ編)



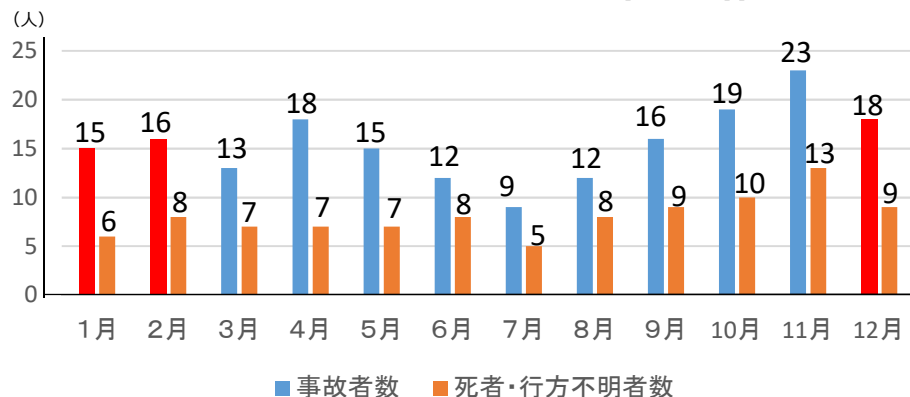
釣り中の事故防止対策について

事故発生状況

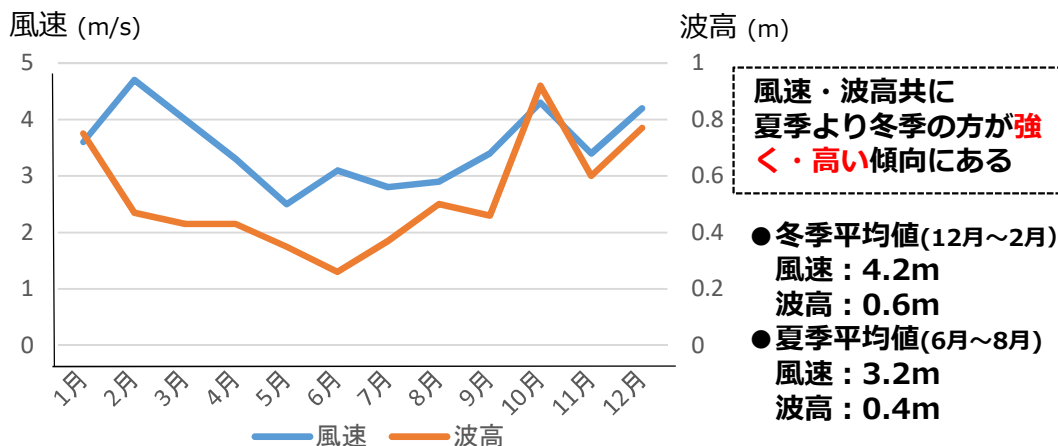
令和3年の釣り中の事故は例年増加傾向にあり、事故内容では、令和2年までの過去3年間において、岩場や岸壁上で足を踏み外したり、波にさらわれるなどして海中転落する事故が多く発生しています。

冬季における海中転落は、北西からの季節風、降雪、低温などによる厳しい自然環境に影響を受けることもあります。

○釣り中の人身事故過去4か年（H30-R3(速報値)）平均



○事故発生時の風速・波高過去3か年（H30-R2）平均



事故防止対策

○釣りを安全に楽しむための最低限必要な装備

- ✓ ① ライフジャケット
- ✓ ② 釣り場に応じた履物
- ✓ ③ 通信装備（防水ケース入り携帯電話）



○釣りを安全に楽しむための行動

- ✓ ① 無理をしない（天気予報の確認と体調管理）
- ✓ ② 単独行動をしない
- ✓ ③ 釣行計画を第三者に伝えておく
- ✓ ④ 立入禁止区域に入らない

以上の4つのポイントを守ることが重要です。

Water Safety Guide

(釣り編)



